

令和6年度 保育所の自己評価

認定NPO法人カローレ
ベビーかろーれ

鶴ヶ島市上広谷654-5
049-227-9172
小規模保育室

実施日 令和7年 3月14日

評価項目	評価結果			
	A とてもできている	B できている	C 一部検討を要する	D 改善を要する
I 子どもの発達援助				
1. 発達援助の基本				
①保育計画が、保育の基本方針に基づき、更に地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。		B		
②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。		A		
③一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。		A		
④一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実際についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。		A		
⑤一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。		A		
2. 健康管理・食事				
①登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。		A		
②健康診断の結果については、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映している。		A		
③感染症への対応については、マニュアルがあり、発生に際しては、その状況を必要に応じて保護者に連絡している。		A		
④専門医から指示があった場合において、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。		A		
⑤日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。		A		
⑥食事を楽しむことができる工夫をしている。		A		
a.食事をする部屋としての雰囲気づくりに配慮している。		A		
b.食器の材質や形などに配慮している。		A		
c.個人差や食育に応じて、量を加減できるよう工夫している。		A		
d.子どもの負担になるほどに、残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない。		A		
e.子どもが落ち着いて食事をとれる楽しめるように工夫している。		A		
f.時には戸外で食べるなどの工夫がある。		A		
g.おやつは手作りを心がけている。		A		
h.旬のものや季節感のあるものを多く取り入れている。		A		
i.嗜好調査や喫食状況に基づき食事内容を改善している。		A		
j.子どもが育てた野菜などを料理して食べることがある。		A		
k.子どもが配膳や後片づけなどに参加できるよう配慮している。		A		
l.調理作業をしている場面を子どもたちがみたり、言葉を交わしたりできるような工夫を行っている。		A		
3. 保育環境				
子どもが心地よく過ごすことのできる環境を準備している。				
①採光に配慮している。		A		
②換気に配慮している。		A		
③各部屋に湿度計などがあり、温度・湿度に配慮している。		A		
④手洗い場、トイレは、保育中も時折り清掃し、不快な臭いがないようにしている。		A		
⑤寝具の消毒や乾燥を定期的に行っている。		A		
⑥屋外の砂場や遊具の衛生面に配慮している。		A		

生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。

①子どもが不安になったりした時にいつでも応じられるように保育者が身近にいる。	A
②一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。	A
③眠くなった時に安心して眠ることができる空間が確保されている。	A
④食事のための空間が確保されている。	A
⑤季節に合わせてインテリアが工夫されている。	A
⑥配色に配慮した保育室となっている。	A
⑦音楽や保育者の声など、音に配慮している。	A
⑧屋外での活動の場が確保されている。	A

4. 保育内容

子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。

①子どもに分かりやすい温かな言葉づかいで、おだやかに話している。	A
②「早くしなさい」とせかす言葉や「だめ」「いけません」など制止する言葉を不必要に用いないようにしている。	A
③子どもの質問に対して、「待ってて」「あとで」などと言わずになるべく早くその場で対応している。	A
④「できない」「やって」などと言ってくる子どもに対して、その都度気持ちを受け止めて対応している。	A
⑤登園時に泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ったりするのではなく子どもの状況に応じて、抱いたり、優しく声をかけたりしている。	A
⑥「いや」などと駄々をこねたり、自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちを汲み取ろうとしている。	A

基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。

①トイレに行くことをせかしたり、一斉に強制したりせずに、一人ひとりのリズムに合わせるようにしている。	A
②おもらしをした時に、その都度やさしく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮している。	A
③衣服の脱ぎ着に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやりたいという子どもの気持ちを大切にしている。	A
④子どもが自分で着脱しやすいように、衣類の整理の仕方や着方の援助について工夫がみられる。	A
⑤休息時には、子守歌を歌ったり、背中を軽くたたくなど、安心して心地よい眠りにつけるように配慮している。	A
⑥休息時間以外でも、一人ひとりの状況に応じて、眠ったり、身体を休ませたりしている。	A
⑦休息時間に、眠くない子どもへの配慮をしている。	A

子どもが自発的に活動できる環境が整備されている

①子どもの発達段階に即した玩具や遊具が用意されている。	A
②子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫されている。	C
③好きな遊びができるコーナーが用意されている。	B
④子どもが自由に遊べる時間が確保されている。	A

身近な自然や社会と関わるような取り組みがされている。

①子どもが動植物に接する機会をつくっている。	A
②園庭や散歩で拾ってきた葉や木の実など、季節感のある素材を活用している。	A
③散歩などで地域の人たちに接する機会をつくっている。	A
④地域の公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会をつくっている。	A

様々な表現活動が自由に体験できるように配慮されている。

①子どもが自由に歌ったり、踊ったりする場面がみられる。	A
②様々な楽器を楽しめるようになっている。	B
③クレヨン・絵具・粘土・紙など、様々な素材を子ども達が自分で使えるように用意されている。	C
④子どもの作品が、保育に活かされたり、工夫して飾られたりするなど大切に扱われている。	A
⑤身体を使った様々な表現遊びが取り入れられている。	A
⑥絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A

遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。

①子ども同士の関係をよりよくするような適切な言葉かけをしている。	A
②けんかの場面では、危険のないように注意しながら、子どもたち同士で解決できるように援助している。	A
③順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。	A
④日常生活における役割分担などが工夫して取り入れられている。	A
⑤異年齢の子どもの交流が行われている。	A

乳幼児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。

①授乳は、子どもが欲しがるときに、抱いて目をあわせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。	A
②離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っている。	A
③おむつ交換時は、やさしく声をかけたり、スキンシップをとりながら行っている。	A
④一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている。	A
⑤外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。	A
⑥喃語には、ゆったりとやさしく応えている。	A
⑦顔を見合ってあやしたり、乳児とのやりとりや触れ合い遊びを行っている。	A
⑧たて抱き、腹ばいなど、子どもの姿勢を変えている。	A
⑨寝返りのできない乳児を寝かせる場合には仰向けに寝かせている。	A
⑩特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	A

長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。

①家庭的な雰囲気が感じられる。	A
②好きなことをしてくつろげる空間や遊具がある。	A
③長時間保育を受ける子どもに夕食や軽食が提供されている。	18:30閉園のため実施なし
④一人ひとりの子どもの要求に応じて、抱いたり、声をかけるなど、ゆったりと接している。	A
⑤異年齢の子ども同士で遊べるように配慮されている。	A
⑥子どもの状況について、職員間の引継ぎを適切に行っている。	A

障がい児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。

①バリアフリーの配慮がみられる。	B
②障がいのない子どもの、障がい児への関わりに対して配慮している。	A
③障がい児の特性に合わせた園での生活の仕方の計画が立てられている。	A
④障がい児保育について、保育所全体で定期的に話し合う機会を設けている。	A
⑤障がい児保育に携わる者は、障がい児保育に関する研修を受けている。	A
⑥医療機関や専門機関から相談や助言を必要に応じて受けられる。	A
⑦保護者に、障がい児に関する適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。	A

5. 入所児童の人権尊重

子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している。

①子どもが自分の意見を保育者などの大人にはっきり言うことができ、他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。	A
②一人ひとりの子ども生活習慣や文化、考え方などの違いを知り、それを尊重する心を育てよう努めている。	A
③子どもの人権への配慮や互いを尊重する心を育てるための具体的な取組を行っている。	B
④子どもの権利擁護に関する研修等に職員が参加している。	A

性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。

①「男の子だからめそめそするな」などと、子どもの態度について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	A
②「それは女の子の色」などと、子どもの服装について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	A
③「それは女の子の遊び」などと、子どもの遊び方について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	A
④「男の子だから家事をすることはしない」などと、育児、家事、介護などについて、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	A
⑤「それは男の子の仕事」などと、職業について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	A

II 子育て支援

1. 入所児童の保護者の育児支援

①一人ひとりの保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	A
②家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	A
③子どもの発達や育児などについて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	A
④虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報をもとに速やかに対処している。	A
⑤虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	A

2. 多様なニーズへの対応

①地域の保育ニーズを把握するための取り組みを行い、それを事業に反映している。	C
--	---

3. 地域の子育て支援

①育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	実施なし
a.電話やファックスなどによる子育て相談を行っている。	
b.来園による子育て相談を行っている。	
c.育児情報の提供を行っている。	
d.親子学校など地域の子育て家庭の親子が、定期的集まる機会を設けている。	
e.地域の子育て家庭の親子と園に通っている親子が交流する機会を設けている。	
d.地域の母子保健活動と連携した取り組みを行っている。	

III 地域の住民や関係機関等との連携

1. 地域の住民や関係機関・団体との連携

①保育所の役割を果たすために必要な地域の関係機関などの情報を収集し、それを職員が共有している。	B
②子どもの健康状況について、医療機関などに相談や連携ができる体制になっている。	A
③育児相談などに際して、児童相談所などの専門機関に相談や連携できる体制になっている。	A
④小学校との間で、小学生と園児とが互いに行事等で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの機会がある。	C
⑤民生・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取り組みを行っている。	C
⑥近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼するなどの配慮をしている。	A
⑦中高生などの保育体験を受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解されている。	C

2. 実習・ボランティア

①実習生を受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れ担当者も決められている。	C
②ボランティアを受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れ担当者も決められている。	C

IV 運営管理

1. 基本方針

①保育所の保育理念及び基本方針が明文化されている。	A
②保育理念や基本方針を職員、保護者、関係者に周知するための取り組みを行っている。	A

2. 組織運営

①保育の質の向上や改善のための取り組みを、職員参加により行っている。	B
②保育の内容について、職員参加により、定期的に自己評価を行っている。	A
③保育の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	A

3. 守秘義務の遵守

①守秘義務の遵守を周知している。	A
------------------	---

4. 情報提供・保護者の意見の反映

①情報提供に当たって、分かりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	A
----------------------------------	---